



ほり
シイ

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

スクールソーシャルワーカーだより 26

こと ほりかわしげとし

horikawassw@gmail.com

☆ **批判** の巻 ☆

他人のことばがすべて

自分を責めている と感じる時があります

事実をありのままを言いなさい。子どもはそう言われて育ちます。それが良い事だと教えられます。しかし実際には、本当の事を言うのはお馬鹿さんです。どうしてでしょう。

☆

人によっては、「皮肉」を言います。それが事実であるほど、言われた側は傷つくので、皮肉は批判だと言えますし、皮肉には、相手のこころを傷つけようという意図が潜んでいるものです。

子どもが失敗した時にも、同じような事があります。

「失敗の原因は練習不足だ」と、自分の不愉快な気持ちを、失敗の原因を指摘して相手を落ち込ませ、自分の気分を良くしようと言う意図が含まれるものです。

★

ウソや言い訳する子に、「ウソつきはドロボウの始まりだ」と言っていないですか？

これは、その子の将来のために、ウソをついたら駄目だよと伝えているのだと思いますが、それなら、「ウソ⇒信用をなくす⇒一人ぼっちになる」この流れを教えて欲しいと願います。

ドロボウ扱いされた子に、「未来の事が分かるのか！」と言う反発を植え付けかねないからです。

もう一つよく耳にするのが、「おにいちゃん…」みたいに、誰かを引き合いに出して批判するパターンです。これが「いもうとは…」と、明らかに本人より下の立場にいる誰かだと、相当深い傷を負わせてしまいます。

☆☆

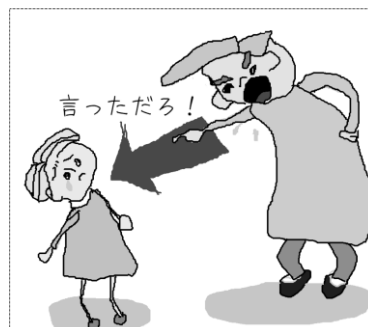
最後をお願いしたいのは、たとえば不登校の子に、「どうして学校に行かないの」と言う、『問いかける形の批判』はしないで欲しいのです。

あなたが、「それは批判ですか？」と驚くなら、批判していると思っていないなら、なおさら問題ですよ。

ひとを批判したら普通は、相手の気持ちを取りなし、こころの傷が少しでも癒えるようにしますが、傷つけている自覚がなければ、何度も何度も、傷つけ続ける事でしょう。

このように、「どうして…」には必ず、『本当なら出来るはずの事が出来ていない、ダメな人間だ』という批判が含まれているのです。

たとえあなたが、「そんな気持ちはない！」と言おうとも、言われた子は確実に、



「孤独の井戸」を掘りますよ。